

令和7年度 式下中学校 全国学力・学習状況調査結果の概要について

はじめに

今年度も実施された全国学力・学習状況調査は、生徒の学力・学習状況や生活状況を把握・分析し、前年度までの結果と比較するなどして、これまでの取組の成果を検証するとともに、課題の分析から改善への今後の取組につないでいます。同時に教育施策の改善を図るとともに、生徒への指導の充実や学習状況の改善に役立てることを目的としています。川西町・三宅町式下中学校組合教育委員会は、本年度4月に実施した全国学力・学習状況調査の結果を式下中学校と共に分析し公表することで、保護者や住民のみならず、教育への関心をさらに高めていただく機会となることを願っています。将来にははたたく地域の子どもたちの健全な育成には、学校と地域・家庭との連携が不可欠です。今後とも引き続きご理解とご支援をいただきますようお願いいたします。

なお、本調査結果は学力の特定の一部であることや学校における教育活動の一側面に過ぎないこと、また、学校では生徒・教職員が力を合わせて、様々な活動に取り組んで現在も進めていること等を十分ご理解いただき、今後ともご協力よろしくお願い申し上げます。

令和7年10月 川西町・三宅町式下中学校組合教育委員会

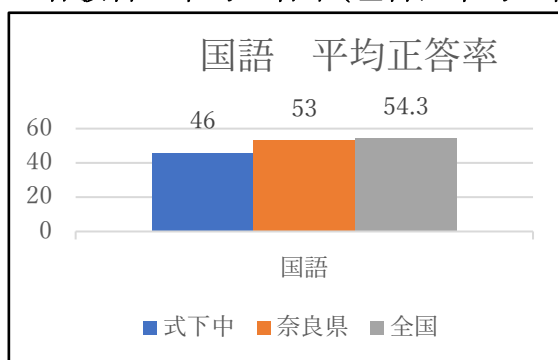
1 調査の概要

- (1) 実施日 令和7年4月14日(月)理科
4月17日(木)国語・数学
- (2) 調査対象 川西町・三宅町式下中学校組合立式下中学校3年生
- (3) 調査内容 <教科に関する調査:国語・数学・理科>
<生徒質問調査:学習意欲・学習方法・学習環境・生活の諸側面などに関する調査>

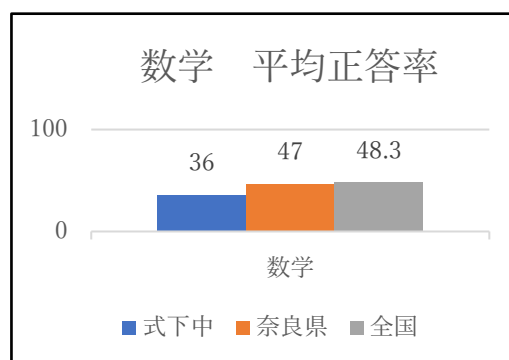
2 調査の目的

生徒の学力や学習状況の一側面を、教科による調査や質問調査を分析・考察することによって把握し、授業改善や生活意識・生活習慣の向上につなげることを目的として実施するものです。

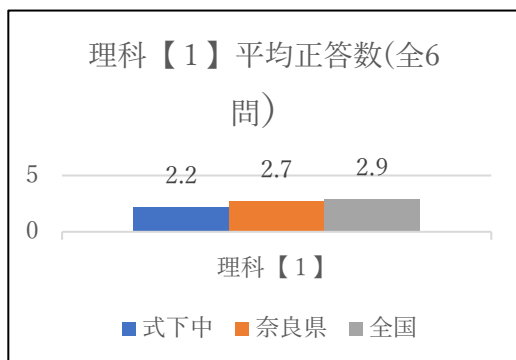
3 各教科の平均正答率(理科は平均正答数)



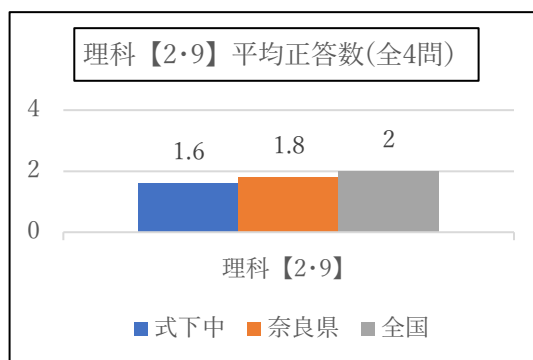
国語の平均正答率は、式下中46%(全国比-8.3ポイント)でした。
※以降 ポイント=Pで表す



数学の平均正答率は、式下中36%(全国比-12.3P)でした。



理科【1】の平均正答数は、式下中 2.2 (全国比-0.7P)でした。



理科【2・9】の平均正答数は、式下中 1.6 (全国比-0.4P)でした。

4 各教科の調査結果を受けての考察

【国語】

問題形式別平均正答率を見ると、「記述式」は17.3%(全国比-8.0P)、「選択式」は55.1%(全国比-8.8P)、「短答式」は64.8%(全国比-8.8P)であった。また、評価の観点別平均正答率は、「知識・技能」が43.2%(全国比-4.9P)、「思考・判断・表現」は46.1%(全国比-9.2P)となっている。

●特に全国の前答率と比べ、低かったものとして、次のような問題が挙げられる。

- ①書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができるかどうかをみる。1三(思・判・表)45.7%(全国比-17.6P)
- ②自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるかどうかをみる。2三(思・判・表)56.8%(全国比-16.6P)
- ③読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる。4一(思・判・表)43.2%(全国比-14.1P)
- ④目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる。1二(思・判・表)69.1%(全国比-13.4P)
- ⑤資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように、表現を工夫することができるかをみる。2四(思・判・表)11.1%(全国比-12.1P)

《考察》

生徒質問(45)「国語の勉強は好きですか」という質問に対し、肯定的回答は32.1%(全国比-25.8P)にとどまり、国語に苦手意識をもつ生徒が多いことがうかがえる。このことは多くの問題で無回答率が全国平均を上回る一因と考えられる。また、記述問題への取り組み方を尋ねた質問(国1)では、「解答しなかったり、途中であきらめたりした」と回答した生徒が34.6%(全国比+6.7P)に上った。この結果からも、粘り強く取り組む姿勢が十分に定着していない様子が見受けられる。

特に、「思考力・判断力・表現力等」の分野では「書くこと」(-10.8P)、「話すこと・聞くこと」(-10.0P)の分野において、全国平均を大きく下回った。この課題の背景は、生徒の生活習慣に関する質問からも読み取れ、例えば、文章の構成や展開の効果を根拠に基づいて考えるかという質問(50)では、否定的な回答が21.8%(全国比+17.8P)に達した。さらに、文章作成後に推敲しているかという質問(51)でも否定的な回答が24.1%(全国比+19.6P)と、いずれも全国平均を大幅に上回っている。

【数学】

学習指導要領の領域で正答率を見ると、「数と式」は31.5%(全国比-12.0P)、「図形」は35.4%(全国比-11.1P)、「関数」は35.8%(全国比-12.4P)、「データの活用」は45.1%(全国比-13.5P)となっている。

評価の観点で正答率を見ると、「知識・技能」は42.8%(全国比-11.6P)、「思考・判断・表現」は26.0%(全国比-13.1P)となっている。

◎正答率が高かったものとして、次のような問題が挙げられる。

- ①素数の意味を理解しているかどうかをみる。1(知・技)37.8%(全国比+6.0P)

●特に全国の前答率と比べ、低かったものとして次のような問題が挙げられる。

- ①目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる。6(3)(思・判・表)25.6%(全国比-19.6P)
- ②多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる。3(知・技)40.2%(全国比-17.9P)
- ③不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。7(2)(思・判・表)39.0%(全国比-16.9P)
- ④式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。6(2)(思・判・表)9.8%(全国比-15.9P)
- ⑤相対度数の意味を理解しているかどうかをみる。5(知・理)26.8%(全国比-15.7P)

《考察》

領域別の正答率は、「数と式」「図形」「関数」「データの活用」のすべての領域で全国平均を下回っており、「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点でも全国平均を下回っていることから、基礎・基本の定着が不十分であると言える。問題番号6(2)の正答率が著しく低い点からも、「思考・判断・表現」の定着に課題があるとうかがえ、さらに、すべての問題において無回答率が全国平均よりも高く、数学に対する苦手意識を払拭しきれない状態も懸念される。正答数の分布を見ると、15問中12問以上の正答者が少ない一方で、5問以下の正答者が受験者数の半数を超えており、このことから基礎学力の底上げが急務であると言える。

生徒質問調査の結果を見ると、(53)「数学の勉強は得意ですか」という質問に肯定的な回答をした生徒は、49.4%(全国比-3.4P)である一方、(58)「数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」という質問に否定的な回答をした生徒は68.9%(全国比+28.3P)に上った。このことから、内容を理解し、それを説明することに対して苦手意識をもつ生徒が多いと考えられる。また、(54)「数学の授業の内容は分かりますか」という質問に肯定的な回答をした生徒は63.2%いることを踏まえ、今後は「分かる」から「できる」へと繋げるために、生徒が自ら積極的に学びに向かうための工夫が必要と言える。さらに、(55)「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」という質問に対し、否定的な回答をした生徒は39.0%で、五人に二人は数学の有用性を実感できていないことを示している。そのため、日々の生活の中で数学が、生活や社会で役立っている事例を紹介するとともに、生徒自身が自発的に見つけられるような意識付けを行っていきたい。

今後一人ひとりの生徒が「わかった」「できた」を実感できる授業を目指し、基礎・基本の定着を図ることと、数学が苦手な生徒を減らしていきたい。また、教え合いの活動をさらに工夫し、生徒同士が深く学び合える授業展開をすることで、家庭学習への意欲にも繋げていきたい。

【理科】

理科は、【1】校内平均正答数は 2.2 (全国比-0.7) である。学習指導要領の領域「粒子を柱とする領域」で評価の観点「思考・判断・表現」で正答率を見ると、52.9% (全国比-26.5P)、また、【2・9】校内平均正答数は 1.6 (全国比-0.4) であった。学習指導要領の領域「地球を柱とする領域」で評価の観点「知識・技能」で正答率を見ると、41.2% (全国比-16.9P) だった。

●特に全国の正答率と比べ、低かったものとして次のような問題が挙げられる。

- ①科学的な探求を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探求から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる。
1(6) (思・判・表) 52.9% (全国比-26.5P)
- ②塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身についているかどうかをみる。1(5) (知・技) 24.7% (全国比-20.2P)
- ③気圧に関する身近な事象を問うことで、気圧の知識が概念として身についているかどうかをみる。
9(2) (知・技) 41.2% (全国比-16.9P)
- ④身のまわりの事象から生じた疑問を見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる。1(2) (思・判・表) 29.4% (全国比-16.8P)
- ⑤気圧について科学的に探求する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、探求の過程の見通しについて分析して解釈できるかどうかをみる。9(1) (思・判・表) 15.3% (全国比-16.5P)

《考察》

生徒質問調査(61)「理科の勉強は好きですか」に対する肯定的回答は 72.4% (全国比+8.6P) で、(62)「理科の授業の内容はよく分かりますか」に対する肯定的回答も 77.0% (全国比+5.6P) と、ともに全国平均を上回っている。

しかしながら、(69)「理科の授業では、自分の予想(仮説)をもとに観察や実験の計画を立てていますか」に対する否定的な回答が 47.1% (全国比+18.1P)、さらに(70)「理科の授業で、課題について観察や実験をして調べていく中で、自分や友達の学びが深まったか、あるいは、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っていますか」についての否定的な回答が 55.2% (全国比+24.5P) と全国平均を上回っていることから、「観察や実験の計画を立てて、振り返ることが習慣づいていないこと」や、「生徒が自ら進んで学習に取り組めていないこと」が顕著に表れていると言える。

【生徒質問調査】

《基本的な生活習慣》

- (1)「朝食を毎日食べている」(全国比-8.6P)、(2)「毎日同じくらいの時刻に寝ている」(全国比-13.3P)、(3)「毎日同じ時刻に起きている」(全国比-21.4P)について、肯定的な回答が少ない。
- 朝食と睡眠の関係については、規則正しい生活を心掛けられる生徒は学習意欲も高い傾向にあると考えられる。

《自己実現》

- (7)「将来の夢や目標をもっている」に、肯定的に答えた生徒は全国平均と比べ低かった。(全国比-8.9P)

《道徳心》

- (8)「人が困っているときには、進んで助けていますか」に対しての肯定的な回答は全国比より低く(全国比-10.5P)、自分に精一杯で周りに目を配れない傾向にあるのかもしれない。
- (11)「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して「当てはまる」と回答した生徒は、全国平均と比べて非常に低かった。(全国比-21.9P)

《協調性》

- (13)「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」に対しての肯定的な回答は低い傾向にある。

《学習》

- (16)「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」について、否定的な回答が全国平均と比べて 14.8% も多かった。興味・関心をもち、主体的に取り組もうとすることができていない。
- (19)「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、一日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間を含む)」について、1時間未満という回答が 59.8% と、全国平均と比べて 20.3% も多い。

《ICT 機器活用》

- (18)「学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、一日当たりどれくらいの時間、PC、タブレットなどの ICT 機器を勉強のために使っていますか。(遊びなどの目的に使う時間は除く)」について、「30 分より少ない・全く使っていない」と回答した生徒が 68.9% だった。
- まだまだ授業以外で PC・タブレットなどの ICT 機器を勉強のために使っていない現状である。

5 学力向上に向けた今後の取組について

- ①個々の学習の特性や理解度、興味・関心に応じて指導内容や方法を工夫する。
- ②毎時間の目標を明確に示すことにより、「何を学び」「何を理解すればいいのか」を、生徒が捉えられるようにする。
- ③毎授業の終わりに ICT 機器を活用し、Google のフォーム機能で、「今日の授業で学んだこと」や「難しかったところや大事なポイント」などを振り返り、どのように改善すれば良いかを伝える。
- ④主体的・対話的な学びができるよう、自分の考えを表現する活動を増やしていく。
- ⑤生徒質問調査結果を踏まえ、保護者と連携し、規則正しい生活習慣の確立と、将来を展望できる取組を充実させ、意欲的に生活できるように、学校・保護者・地域で支援していく。

※参考資料（生徒質問調査から）

《国語について》

- ①「国語の勉強は好きですか」肯定的 32.1%（全国比-25.8P）
- ②「国語の授業の内容はよく分かりますか」肯定的 44.8%（全国比-32.2P）
- ③「国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか」肯定的 71.2%（全国比-17.1P）
- ④「国語の授業で、先生はあなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか」肯定的 41.3%（全国比-31.6P）
- ⑤「国語の授業で、先生はあなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてください」肯定的 40.2%（全国比-30.0P）
- ⑥「国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開にどのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていますか」肯定的 39.0%（全国比-35.0P）
- ⑦「国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み返し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて、文章を整えていますか」肯定的 48.2%（全国比-25.4P）

《数学について》

- ①「数学の勉強は好きですか」肯定的 49.4%（全国比-4.4P）
- ②「数学の授業の内容はよく分かりますか」肯定的 63.2%（全国比-7.1P）
- ③「数学の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか」肯定的 60.9%（全国比-14.3P）
- ④「数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」肯定的 28.7%（全国比-29.9P）

《理科について》

- ①「理科の勉強は好きですか」肯定的 72.4%（全国比+8.6P）
- ②「理科の授業の内容はよく分かりますか」肯定的 77.0%（全国比+5.6P）
- ③「理科の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか」肯定的 59.7%（全国比-3.7P）
- ④「理科の授業では、自分の予想（仮説）をもとに観察や実験の計画を立てていますか」肯定的 52.9%（全国比-17.3P）
- ⑤「理科の授業で、課題について観察や実験をして調べていく中で、自分や友達の学びが深まったか、あるいは、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っていますか」肯定的 44.8%（全国比-23.6P）

このように式下中学校では、調査結果を受け、分析し授業改善を進めていくとしており、川西町・三宅町式下中学校組合教育委員会は、学校のこれらの取組を積極的に支援してまいります。